

○事業所名	福岡市立東部療育センター 分園すてっぷ松香台		
○保護者評価実施期間	R6年12月9日		～ R6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	72	(回答者数) 67
○従業者評価実施期間	R6年11月29日		～ R6年12月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	R6年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に応じた対応を少人数グループで行うことができる為、こどもたちも活動内容がわかり自信を持って活動することができている。	一週間を通して通園してくる子が毎日、違うため、視覚支援や環境設定を通園してくるこどもに会わせて行っている。保育の流れとその子の特性の把握と配慮に関わる職員全員で共通認識を持つ時間を設けている。	家庭や並行通園をしている園と連携し当事業所以外の集団でもこどもが活動を理解し安心して過ごせる支援の方法を検討したい。
2	東部療育センターの専門職との連携ができ専門的な視点でこどもを見ることや保護者の困りに対応や提案を行うことができる。(ケースワーカー、OT、ST、発達相談員、訪問支援専門員)	保護者の困り感やこちらからも疑問に思うこと、対応に迷うことに関してその問題を積極的に専門職に相談するようにしている。また、それを保護者とも共有し関わりに繋げている。	今後も様々な職種の視点が持てるように職員の研修やOJTを行いたい。
3	こどもの状態を知り、保護者や並行通園をしている園の職員への環境設定や関わり方についての支援ができる。また、家庭や園の職員との情報共有をし共通認識を持つことで分園での支援内容に生かすことができる。	保護者からの相談(並行通園の園での困り)や園の職員の相談を受け、丁寧に伝えるように努めている。園での困りがある場合に支援計画にも盛り込み園の職員との共有や相談を受けることを積極的に伝えている。	必要に応じて保護者を通して園との連携をとるように働きかけていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	把握人数の多さによりこどもの状態に合わせた通園頻度の設定が難しい。(積み重ねが必要な子への支援が難しい)	事業所としての許容量の限界がある。	民間の事業所との違いや当事業所の役割やあり方を明確にして保護者に選択して欲しい。グループ数やグループの人数の上限を設ける。人数によりこどもの状態に合わせた通園の形式の検討を行う。
2	継続した職員の雇用ができていない為、常にOJTや研修が必要となっている。	把握人数の多さ、午前と午後のグループ運営により業務が煩雑になっている。支援に対するやりがいを感じる余裕がないことや教える職員の負担も大きくなっている。	業務の整理や職員間の役割分担を検討する。東部療育センターでの研修の活用や研修(実習)期間を設けられないか検討したい。
3			